

島根県雲南市におけるソーシャルチャレンジバレー構想 —「子ども×若者×大人×企業」チャレンジによる持続可能なまちづくり—

研究員 大友 和佳子

目次

- | | |
|----------------------|-------------|
| 1. はじめに | (3) 大人チャレンジ |
| 2. 島根県雲南市概要 | (4) 企業チャレンジ |
| 3. 雲南ソーシャルチャレンジバレー構想 | 4. おわりに |
| (1) 子どもチャレンジ | 5. 参考文献 |
| (2) 若者チャレンジ | |

1. はじめに

2020年に開始したコロナ禍、ウクライナ危機、気候変動の激化は、私達の生活に様々な影響を与えている。国内においても、少子化による人口減少や物価の上昇、地震等の災害リスクの高まりなど、様々な課題が山積している。こうした時代を迎え、私たちは、より一層、社会の在り方に自覚的になり、目指すべき社会の姿を考える必要がある。それは一面では、自治の力を高めていくということでもある。しかし、そのためには何が必要なのだろうか。自治の力は、どのように高めていくことが可能なのだろうか。本稿では、こうした問題意識から、市民が主体的に問題解決に取り組む力（自治の力）を高める政策を展開している島根県雲南市について紹介する。

2. 島根県雲南市概要

島根県雲南市は、2004年に大原郡大東町、加茂町、木次町、飯石郡三刀屋町、掛合町、吉田村の6町村が新設合併して誕生した（図1）。人口は、2022年8月末の雲南市の人口統計によれば35,963人¹で高齢化率は40.18%¹である。

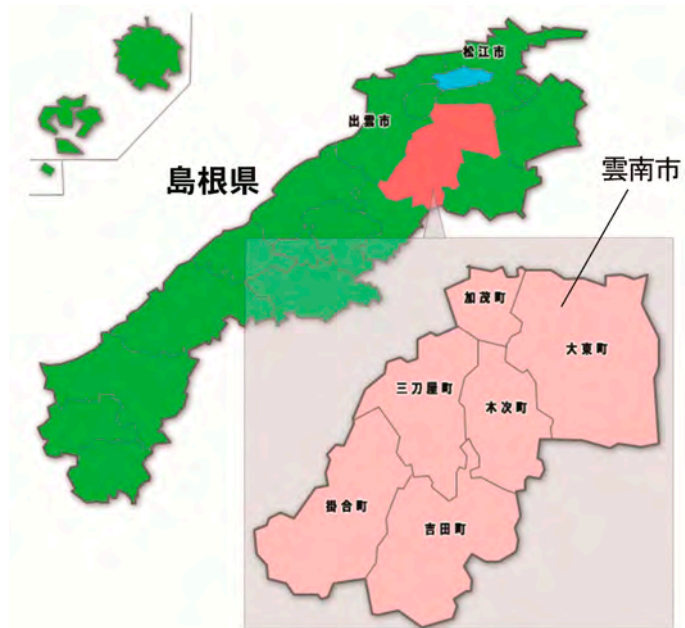
広域合併後の現象として普遍的なものに、合併による行政区域の拡大が、行政と地域の距離を通ざけることがある。それは、地域の公的機能の低下を招く。こうしたことへの危機感から、雲南市では合併直後から小規模多機能自治の仕組みを導入している。

小規模多機能自治とは、地域内の課題を「自ら考え、決定し、実行する組織」を形成するしくみをさす。具体的には、自治会や町内会等基礎的コミュニティよりも広域のおおむね小学校区域等の範囲において、地域内の個人や団体（自治会、消防団、サークル、高齢者の会、若者や女性、ボランティアグループ等）で構成する地域共同体などが主体となり、地域の問題を解決する仕組みである。多様な主体が連携することで、課題解決を促進するのが小規模多機能自治である。雲南市では、この小規模多機能自治を担う住民組織を「地域自主組織」として誕生させた。

そして、この「地域自主組織」に続き、地域課題解決にチャレンジする人材を育成するソーシャルチャレンジバレー構想を打ち出している（図2）。

1 雲南市の人口・世帯数（8月末現在） | 雲南市ホームページ (https://www.city.unnan.shimane.jp/unnan/shisei_jouhou/jouhoukoukai/toukei/jinkou.html)

(図1) 雲南市地図



平成16年11月 合併し誕生

(出所) 雲南市役所より提供

(図2) ソーシャルチャレンジバレー構想



(出所) 雲南市ホームページから引用

ソーシャルチャレンジバレー構想とは、地域の中の担い手を育てるために、子ども、若者、大人、企業などが次々とチャレンジをしていくような仕組みをつくることである。

それでは次に3章でそれぞれのチャレンジの仕組みについて説明したい。

3. 雲南ソーシャルチャレンジバレー構想

(1) 子どもチャレンジ

まず、子どもチャレンジについて説明する。子どもチャレンジは幼児期から高校生年代が対象で、小中学生対象の「夢発見プログラム」と、高校生対象の「雲南式探究プログラム」の2本立てである。「夢発見プログラム」は、小中学生のキャリア教育で、市内7校が合同して実施する職場体験などを指す。

また、「雲南式探究プログラム」は、高校の授業を地域の商工会や市内企業、地域自主組織などと連携して実施する取り組みである。

(図3)に雲南式探究プログラムを説明した。雲南式探究プログラムは、先ず自分を知ることから始まり、次に地域を深く知り一人のパートナーを見つけ課題解決を一緒に進めること、最後にこうした一連の流れから自分が学んだことを言葉にして地域の人に感謝を伝える。そのことで地域の中で生きる人々との関係を作る。

このように、子ども時代に地域との関わりをもち、自分の幸せや喜び、価値観などを見つめる機会を得ることは、将来の生き方を考えることにつながる。この実践を地域と関連させることで、地域の将来の担い手の育成を目指している。

(2) 若者チャレンジ

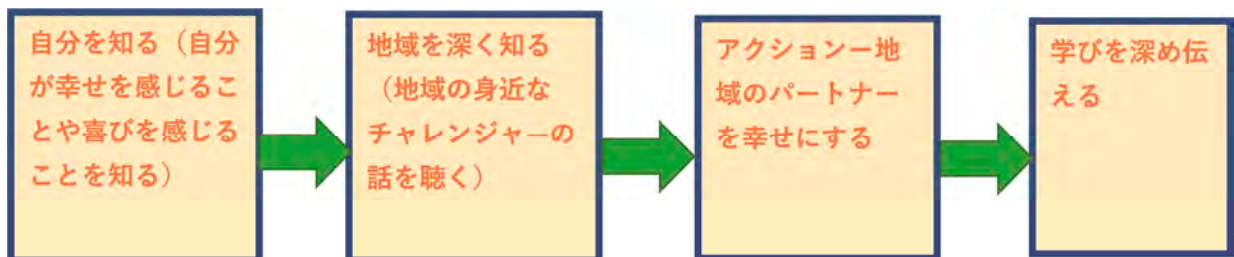
雲南市の若者チャレンジを代表するものは、20代～30代の若者を対象とした「幸雲南塾」で2011年から開始している。塾では、先輩起業家の取り組み事例を学び、自らが取り組む活動プランを立案し、地域課題の解決や地域資源の活用などをグループで議論する。期間は半年間で、行動しながらプランを練り上げ、最終報告会で成果を発表する。各回の講座は市外からの参加者もあり、志のある市内

(写真1) 幸雲南塾の様子



(出所) 雲南市役所より提供

(図3) 雲南式探究プログラム



(出所) 雲南市役所へのヒアリングにより筆者作成

外の若者が地域とつながり、全国にネットワークを広げることができる²。

幸雲南塾の卒業生の起業には、地域の予防医療を展開しているコミュニティナースの取り組みなどが全国的に知られている。コミュニティナースのコンセプトは「人とつながりまちを元気にする」であり、病院ではなく看護師が地域の中におり、人々が健康で楽しく暮らせることをサポートする仕組みを作っている。地域医療の担い手不足に課題を抱えていた地域にとっては非常に重要な事業である。

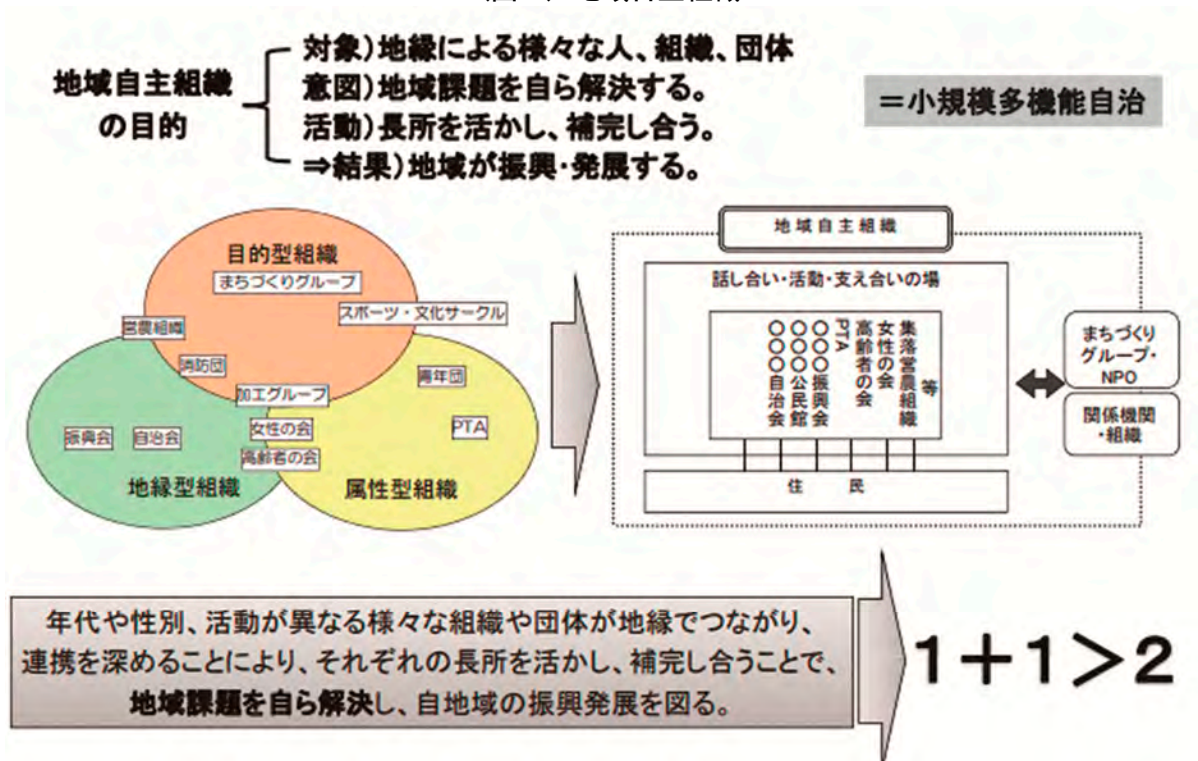
また、こうした動きから大学生、社会人がつながり、互いに学び合い、雲南市の未来について話し合う「うんなん若者会議」なども生まれている。「うんなん若者会議」では、市内の高校生・大学生・社会人の若者約80人が集まり、「こんなことしてみたい。」というア

イデアを話し合っている。

(3) 大人チャレンジ

それでは、次に雲南市における「大人チャレンジ」について紹介をする。雲南市における「大人チャレンジ」は、地域における「地域自主組織」から生まれる様々な取り組みを指す。前述したように、「地域自主組織」とは、地域でできることは自分たちで解決していくという地域の自立した組織を指す(図4)。市内全域に30の地域自主組織があり、地域づくり・地域福祉・生涯学習の3つの分野を中心に活動が展開されている^[1]。地域自主組織が運営しているものには、独居老人の見守りをする「安心生活見守り事業」や、地域に買い物場を創出する「はたマーケット」などがある。

(図4) 地域自主組織



(出所) 雲南市役所より提供

2 若手人材を発掘し、育成、ネットワーク化するこの取り組みは、新たなモデルとして、東北など全国7カ所に波及している。

(4) 企業チャレンジ

最後に「企業チャレンジ」について説明をする。「企業チャレンジ」とは、企業が雲南市をフィールドとして、地域と協働しながら社会課題解決や新たな価値創造を目指したチャレンジを行い、社会実装までめざす取り組みを指す。

行政側は、企業のチャレンジを促すために

- ① 地域住民・地域自主組織との連携・調整（地域内の課題の可視化、協議の場の設定、ステークホルダーとの接続）
- ② 市役所内の調整（担当部局との接続）
- ③ 企業間の交流の場づくり
- ④ 実証前イベント開催サポート（会場手配や広報支援、イベント時の運営サポート）
- ⑤ 実証事業実施サポート（実証事業計画のアイデア出し・協議、各種機関・ステークホルダーとの調整、資金獲得支援）

等を行う。

企業チャレンジの例としては、㈱ヒトカラムメディアが、空き家をオフィス（働く場）としてプロデュースし、シェアオフィス「オトナリ」を2020年10月にオープンしている、等がある。

（写真2）「オトナリ」



（出所）雲南市役所より提供

4. おわりに

2019年4月、雲南市は市内のチャレンジを応援する条例として、「雲南市チャレンジ推進条例」を定めた。それは市長や議員などのリーダー層が変わっても市内のチャレンジを重視する方向性が変わらないようにするためである。第3条は、「市民は、チャレンジに取り組む権利を有します」。第4条は、「市長は、雲南市におけるチャレンジの取組を理解し、必要な支援に努めなければなりません」と定められている。こうした条例に基づき、雲南市はこれからも「挑戦」をキーワードに持続可能な地域づくりを目指していく。

市民のチャレンジ力や自治力というものは一朝一夕に高まるものではない。最初は戸惑いながら、課題を隣人と話し合う中で、少しずつ関係を作る力や主体的に動く力が身についてくる。こうしたチャレンジに対し、互いに応援しあう土壌を生み出すことで10年、20年先の雲南市の姿を、描こうとしているのである。

5. 参考文献

- [1] 大谷吾郎 (2021) 「住民自治をどう高めるかー雲南市の小規模多機能自治の取り組み」, 月刊福祉
- [2] 尾野寛明・中村香菜子・大美光代 (2021) 『わたしをつくるまちづくり』, コールサック社
- [3] ダニエル・ゴールマン/ピーター・センゲ. 著/井上英之監訳 (2022) 『21世紀の教育』, ダイヤモンド社

（謝辞）

この度は、執筆にあたり雲南市役所の方々に大変お世話になり感謝申し上げます。